

新規就農のステップアップ支援体制の 確立と取組み

県北農林事務所安達農業普及所

1 背景

- ・ 高齢化等により地域農業を担う後継者が不足している中、新規就農者の確保・育成は喫緊の課題である。
- ・ 新規就農者は経営的に不安定であり、経営及び技術面からの支援が必要である。
- ・ 縦割り行政で関係する窓口が多く、就農相談者が各相談窓口自ら相談する必要があった。



図1 安達地域の農業経営体

2 ねらい

関係機関・団体がより一層連携し

就農相談から就農後の経営安定・定着までの支援体制を確立



新規就農のステップ

- ・ 新規就農者の受入体制の確立ため、各相談窓口の役割を明確化し**就農相談体制の確立**。
- ・ 新規就農者の経営安定・定着のため、**フォローアップ体制の確立**。
- ・ 関係機関・団体の支援体制が**断続的かつ積極的な取組みとなるよう体制の確立**。

3 活動内容

【設立までの動き】

- ・ 新規就農相談件数・新規就農者が増加する中、普及所・JAの就農担当者の働きかけにより、令和5年7月から就農に関する関係機関団体が連携し就農相談会を開催した。
- ・ 担い手の確保・育成から定着、経営発展まで一貫した支援を強化するため、令和6年3月、管内3市村及びJA、福島県農業振興公社と連携し、「安達地域担い手支援連携会議」及び下部組織として「安達地域担い手支援チーム」を設置した。

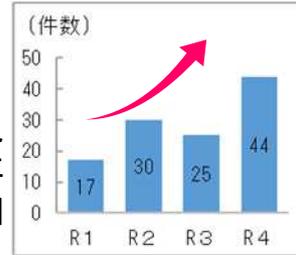


図2 相談件数

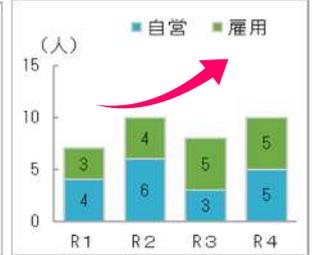


図3 新規就農者数

安達地域担い手支援連携会議
(課長クラス)
安達地域担い手支援チーム(担当者)
安達地域担い手連携会議組織図

(1) 新規就農者の受入体制の整備

<現状・課題>

- ・ 各相談窓口の担当者によってチーム員による相談会への誘導基準が不明確
- ・ 相談者が就農の具体的なイメージがない
- ・ 新規就農者の確保に向けた取組み

<課題解決の方向性>

- ・ 就農相談の体制づくり
- ・ 各相談窓口での対応の明確化
- ・ 先輩農業者を講師とした研修会の開催



チーム員定例会

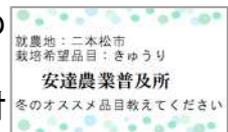
(2) フォローアップ体制の整備

<現状・課題>

- ・ 新規就農者同士が交流する機会がない
- ・ 新規就農者の経営品目に偏りがある
- ・ 支援側のマンパワーが足りない
- ・ 異動により支援の質が保てない

<課題解決の方向性>

- ・ 現地研修会や仲間づくりのための交流会開催
- ・ JAと連携した支援体制を検討
- ・ 個別カルテ作成



交流会名刺

(3) 安達地域担い手支援チーム体制の構築

<現状・課題>

- ・ チーム員によって定例会や研修会への参加姿勢が異なる

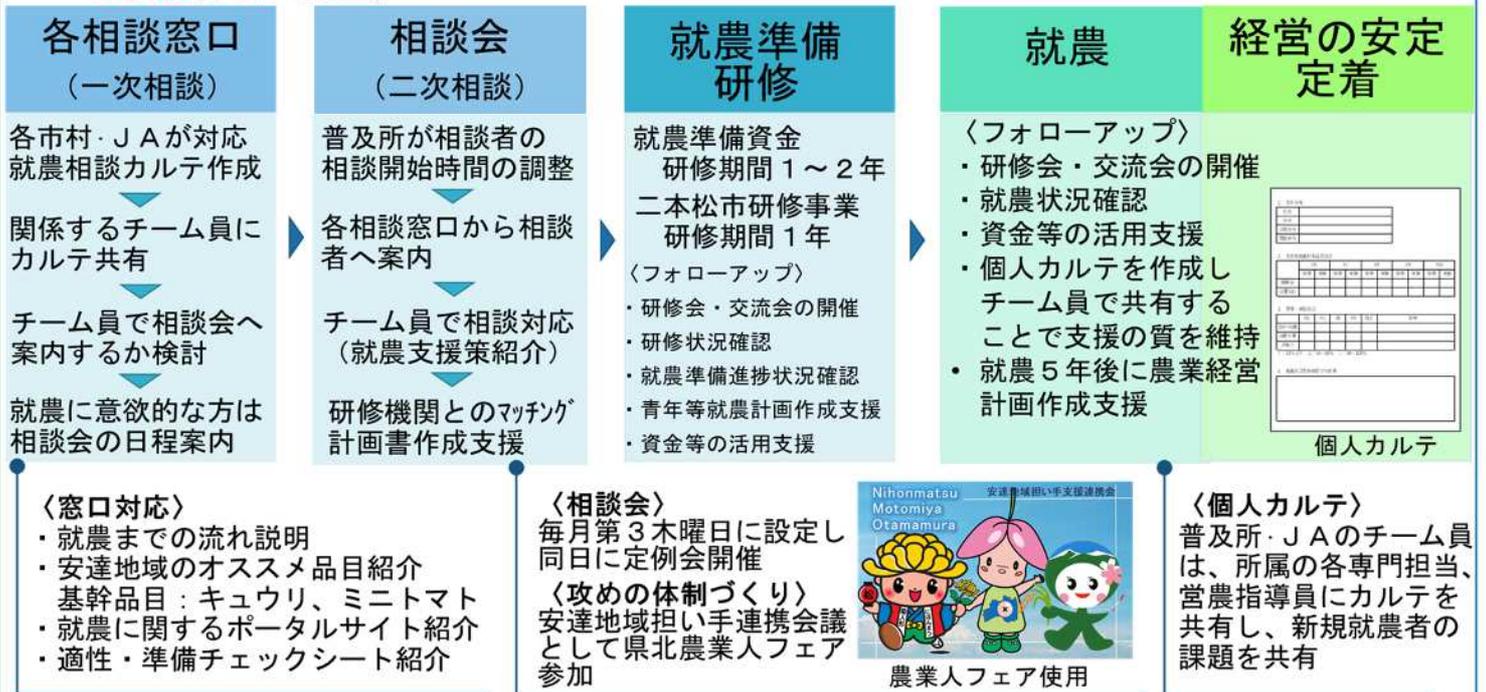
<課題解決の方向性>

- ・ 安達地域として新規就農者を確保・育成、就農後の経営安定・定着のための支援体制を検討

4 活動成果

○ 新規就農のステップアップ支援体制の確立

就農相談から就農、経営の安定・定着までの支援体制を整理し、**効率的・効果的な支援体制の確立**。



○ 安達地域担い手支援チーム体制の確立

月1回の定例会を開催することで、**安達地域として新規就農者を確保する体制を構築**。



○ 安達地域の認定研修機関拡充 (R2 2件 → R6 11件)

新規就農者の確保に向け認定研修機関の拡充の重要性が理解され、チーム員で認定研修機関候補者を選定し、候補者協力のもと申請。**本宮市に新たな研修機関1件確保**。

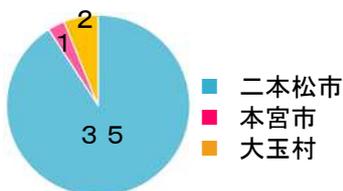
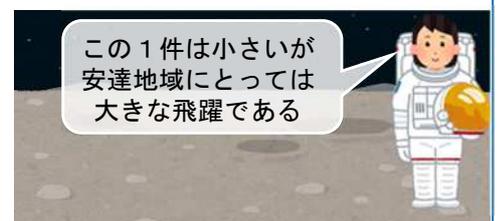


表1 新規認定研修機関認定数

	R2	R3	R4	R5	R6
二本松市	2	2	2	2	
本宮市		1			1
大玉村		1			

図4 認定新規就農者数 (R6. 12月時点)



5 今後の活動・方向性

○ 安達地域担い手支援チーム体制のシンカ

多様化している新規就農希望者のニーズに対応できるように体制の**深化**を目指す。



○ 新規就農のステップアップ支援体制のシンカ

SPDCAサイクルを継続することで支援体制の**進化**を目指す。



関係機関・団体が一体となり安達地域担い手支援連携会議を**新化**させ、安達地域の多様な担い手の確保・育成から定着、経営発展まで支援する